

【京都大学国際ビジネス研究会】enactus2014 7月6日

日本の伝統文化である工芸品や産業の約9割は、茶の湯（茶道）に関係するものですが、国指定の半分は絹・和装に関するもので

国が指定できない一子相伝ものは、京都市が指定しています。

西陣織、京鹿の子紋、京友禅、京小紋、京組み紐、京繻、京黒紋付染、

京房紐・燃紐、京袋物、京足袋、邦楽器絃、調べ繻(絹)、

◎◎起：きっかけは養蚕農家さん製糸工場からの呼び声でした

世界に訴求する為、我々は茶道部から日本の文化を学んでいます、

そこでは、被災地の支援にもなるので「絹」の着物を着るようにしています。

その根拠と被災地支援方法を模索していた時、ある製糸工場の方の「あと5年もたないかも・・・」という呼びに似たブログに出会いました。

全国の養蚕農家さんから繭を買い取る農協製糸工場としては、日本最大にして最後の1件で、一番歴史ある「碓氷製糸」という工場スタッフさんからでした。

さっそく工場に連絡し、お話を伺いました所、

「政府からの補助が切れて、養蚕農家がやっていけない」

「国内製糸機械では最新式でも、もう製造していない歴史的な機械で、燃料に自然素材等を使う為、エコだが非常に費用が掛かって苦しい」

「高齢農家さんの糸を残らず高く買い取ってあげたいが、高く売れないと倒産してしまう」と、言ったものでした。

この工場がなくなると、被災地の高齢養蚕農家さんが、せつかく立ち直ろうとしても、売れなければ、立ち直れない！

そこで初めて驚愕の事実を知ったのです。 すなわら

『日本の絹』とされる絹は、繭や糸がほぼ輸入で、我々が守っているつもり『純粋な国産の絹』は、市場流通着物の1%もない「絶滅危惧種」なのです。

日本は、幕末頃から、ヨーロッパ絹需要の80%を輸出する「世界一の絹の国」でした。また、その過半数は奥州・福島などから出荷され、

日本の誇り・日本の絹「福島の養蚕は日本の誇り」なのです。

そして「養蚕」は、太古から皇后様みずから率先して行い皆に奨励された、日本の歴史的な文化です。

承：日本の絹

絹は「カイコ」という蛾の一種が、体内プロテインを吐いて、お母さんの胎盤的機能を持つ繭を作り、空調を快適にし、老廃物を排出させます。

繭で出来た真綿の布団は、江戸時代は殿様用で、一晩寝るとどっと臭い汗が出て、一晩で体調が回復したとも言われデトックス的効果を持ちます。

所で「絹」というのは、どうやって製品化されるのでしょうか。 <白生地の場合>

1養蚕：まず、養蚕農家さんは餌である桑を大量に育て、シーズン中、毎日、1日何往復もし桑を与えて、カイコを育てます。 春繭が最高級。

2製糸：全国に1件しかない組合の工場は、全国からの養蚕農家さんの繭を買取り、高温で消毒し、見えないような糸を熱って最初の糸「生糸」にします。

3製織：織工場は、その糸を輪に入れて繰って束ね、生地の種類に合わせて「生糸」を合わせて「織糸」に作っていきます。

4精練：「練り」織った生地は、タンパク質で硬くなっているため、産地専門の超高温作業場で取って、柔らかくします。1回のロットは約40着分位。

現在、表地の白生地産地は「京都・丹後らりめん」と滋賀「浜らりめん」のほぼ2代産地のみになってしまいました。

次に、生地から、デザイン彩色された反物へする工程

1デザイン・下絵・

2糊置き①、柄の部分をコム状の糊を置いて防水します。べた糊は「伏せ糊」、

3下地染め：は「引き染め」と言い、糊でマスキングした後、広い部分をべた染めますが、均一に染めるのは非常に難しい技です、

4「蒸しと水元」専門職人が：次に染を定着させる為に、高温で蒸し、その後、糊を流水で洗い流します。

5湯熨斗①、縮んだ生地を既定の大きさに高温スチームで広げる、代々、生地専門のプレス職人さんです。

6a 黒紋付なら、お父さんの「家紋」を描き、祖父から父、父から息子へ代々受け継ぎます。石橋家の場合、足利家流、河内・清和源氏の一旗紋、3種

6b 京鹿の子など「紋染め」は、5mm位の絞りをひたすらしいますが、着物全面なら3年位かかり、調子が変わるので、その間病気でできません。

6c 「型染め」なら貴重な柿渋の伝統産業型紙を何種類も置いて多色染めますが、型なのに「友禅」と呼ぶ事が多いです。

6d 「友禅染め」極上の友禅染めは、「糸目」という細い糊の線で再度 糊職人が「糊置き②」し、

7 その中に、「友禅職人」が色を描いていく「手描友禅」という職人技です。

8 「蒸し・水元」②

9湯熨斗②で整えてから

10「刺繍」京都の刺繍は、「京縫い」と言い、中国刺繍との違いは、立体的な表現とふんわりとした糸運びです。

11「金箔」金箔をはる専門職人さんもいます

12「染色補正」祖父の頃から代々この仕事という職人さんが多く、ちょっとした色むらなど、見事に直します。

これで生地が完成！ 次に、卯問屋京都から地方2軒を経て、小売される

「呉服屋」家側によっては袖丈、着物の種類では袖の丸みや、前巾などが変わり 熟練の呉服店さんと相談して決め、同じサイズで襦袢も作ります。

「縫製」京都では「京仕立て」と言って糸が着物を破かない逆針を3年以上修業します。名工の1人は洗濯しても縮まない匠の技で仕立てます。

20近い職人の技を経て、着物は完成します。

こんな沢山の職人さん技と人生がかかっている着物です、江戸時代は大名やお金持らなど、セレブしか絹の着物を着られず、庶民は木綿などでした。

しかし今は、大手までプリンターで印刷する時代。印刷の品は、激安で作った品を高く売り、本当の高級品は高額なのに、売れないからと、印刷ものに近づけた低めでしか買ってもらえなくなり、腕のいい高い職人さんほど生活が出来にくくなってきています。消費者の目利きが必要です

白生地2代産地のほぼ全ては、技術者の集積地、京都に集まります。卯問屋も、大手1社と、最古の2軒になってしまいました。

なぜその国産繭が売れなくなったのでしょうか、それを京都にある日本最古の白生地やさんに聞いてみましたら

日本の高齢養蚕農家さんの繭の糸は、輸入品に比べ高く、糸の玉「横段」が得意やすいとの事、それによって染むらなどが出来れば、『不良品』と言われ、製造者が弁償する事になるが、1反100円の利益に、完成品18万や振袖50万など弁償しては会社は倒産してしまう、実際多くは廃業された。

国産を使ってあげたいが、輸入糸を国内で織る事までで踏ん張っている。との事でした。 もう1社最古の問屋は「日本の絹」印もない、糸も織も海外の品を販売して利益を得ているようでした。

織ってくれる問屋さんがいないなら、自分たちで作ろう！ まず、碓氷製糸工場に福島の繭だけの糸「福島蚕糸」が出来ないか？聞いてみました。

全国の高齢農家さんからすこしづつ来てくるが、一時に来るから 分けてられない！混ぜらまう ⇒ と言うのを、お願いし

我々が買える単位として、たった1kg 単位で福島の糸を製糸してもらう、ご無理を承諾してもらった。

次に、丹後らりめん企業さんに聞いた 全部1っ軒1っ軒 1反から折ってもらえないか？聞いた

最後の一軒が、難しいけどやりましようと言ってくれた。

浜縮緬も 15件中、縮緬だけは6件 連絡し、理事長さんの所だけが引き受けてく佐多

工場を拝見させて頂いて、胸が熱くなった

糸を製糸工場から購入して、織物工場では、さらに生地別に糸を作っていく 本当に大変な作業でした

理事長さんは、「本当は横段は、高級品の証だが、それをきちんと知ってる人も、紹介出来る販売員もないから、お客さんに納得してもらえないんだよ」と教えてくれました 本当は高級品 道が見えた！

生地 ある縮緬 経糸：2040本に耳糸72本、42.2尺が35尺に仕上がる 仕上げ巾10寸、この時点で405g

紋織は、地の模様を折り出す時に、1p模様ごとに必要です

糸を買って納めるので、1反で織ってほしい (卸)

表地は、日本に現存する2大産地から可能となった！次に、現地に利益を還元したく、福島での販売先を探したところ

が無いが探した所、福島のお舗販売店が、細々と表地の織物をまもっている事がわかりました。 呉服販売、洋服ヘリフォームもしている！

18世紀江戸時代に創業し、侍であったのが明治から織物を始めた家で、生業を守るために、多角経営をされていました。

ここでもご無理をお願いしたところ、1kじゃ工場の効率合わない と福島蚕糸30kgを碓氷製糸から買い取って

製品化して下さることになりました。

さあ、30kg買い取って製品化して下さる心意気に、報いる為 必死で売り先を探しました。

福島からの織生地は、胴裏で、丈夫すぎて、買い替え需要が無い上、着物には少量しか必要なく、本当に振販しにくいものでした。

震災で亀裂が治っていない工場で、老夫妻が必死で守っていらっしゃいます。

まず、老舗T百貨店さんの本社バイヤーに交渉しましたが、バイヤーさんの知識を拝聴して終わりました。

そこで、京都市内の老舗にあたっていった所、

・茶道お家物ご用達の呉服店さんは、受注販売 ()

・日本最古の和装小物店さんでは「えり正」さんは、胴裏の生地で、舞妓さんなどの着物下着を新商品にして下さることとなりました。今月

ご協力販売して頂ける事になりました。

◆次に、白生地を一般消費者に買って頂く為、京都の各分野職人を何回も交渉し、着物を自分で作れるメニューを開発しました！

いずれも、出来なかつたら、伝統工芸士などのプロが、残りを仕上げて下さる というものです。

1、自分のデザインの絵柄で これは⇒ 「糊置き」職人さんなど 「染の伝統工芸士」 約1万

2、自分が白生地に絵付けする⇒ 「京友禅」の伝統工芸士・職人 2-3万

3、自分で刺繍する 「京縫い」の刺繍職人・伝統工芸士 1万から

よん、自分で縫う「和裁」 「京仕立」の伝統工芸士・現代の名工/厚生労働省選定)

京都最高峰の伝統工芸士職人さん方が、福島のために、通常プロが引き受けられない無理を受けてくださり

白生地を自分の着物に出来るよう手伝って下さいます。

◆これは、

横紋で1mmのムラがあったとしても、

・消費者は高級品ならではのたどわかって購入できる

・柄や刺繍で全く問題なく、返品にはならない

・お孫さんや、娘の成人式に、お母さんやお祖母ちゃんがぬってあげられる、

・良い品の見分けが付き、不当表示にだまされない

・職人さんの苦勞がわかり、価格の理解ができる

・各工程で少しづつ進めるので、お稽古・体験感覚価格で伝統文化を楽しみながら出来ます

ということ⇒1回1-2万位の、最低3回からの体験で、生地込予価最低85000(税別)から

フルオーダーのお誂え最高峰着物が完成します。 友禪振袖も可能！です、 現在、契約は済み、細々営業し、公的サイトに掲載予定です。

激安で、自作着物が出来、作る人は楽しいわけです！

柄の完成品しか安心して販売出来ないシステムの業界に、新しい販売手法、ルートの開拓をしました。

さらに、福島の誇る朋襷素材を拡張出来るようにする為、朋襷生地を使った「ウェディング・ドレス」のオートクチュールメニューを開発しました。

丸福さんの「濡れ襦」という強靱な生地だからこそ出来る事です。 しかも、朋襷生地なので、白絹なのに安く作れます。

すなわら、バリコレのオートクチュールデザイナーさんにお願ひし、縫製を引き受けて頂く契約し、

デザイン画を描いて、丸福さんと、デザイナーさんに、見積もりを取って、安いものでは3万位から、オーダーを可能にしました。

また加工前の絹地が、全面美容液成分の「シルク・プロテイン」であり、高級洋服地「オーガンジー」そっくりである事に着目し、(洗濯テストや、有識者へ

の聞き取り調整、試作品の製作などし、セレブ向けに美肌効果がある「シャツ&ブラウス」や単衣の着物として発売を可能にしました。

海外マスコミ向けプレス(松本)と、動画告知の世界配信など実施

歴史的に、日本の紳士は、茶や文化を足しなむ、 理事長の着物は、横紋、当然 袴も自分で着られえる 我々も頑張りたい！

春袴が最上

※「東京・丸の内 朝大学」の場所と枠に、セミナーを開催し、絹や着物の知見を伝えた。(約8万人＝アクセス解析：1万人/月)

※ 農林水産省管轄「和食会議」のHPに、セミナーの紹介を頂く(アクセス解析：平均3000人/月×3= 9千人)

福島農産課協賛、福島新聞社掲載 各生産地：関係者ら 数万人

先：日本にはこんなに織物がある

日本の織物は日本独自の品種の絹で、昇弥呼の前から織っていました。

日本各地には素晴らしい織物を頑張って守っている方々が、沢山いらっしゃいます。

今日、メンバーが来ている世界遺産の越後上布には、沖縄の芭蕉布帯が合い、高級でも、茶会などで着る人が増えれば、その技術は守られます。いずれ、各

都道府県の伝統工芸にお役に立てるよう、目指したいと思っております。

協力 京都より正、栗川しめた、丸福織物、京都染織各伝統工芸士様、日本発祥会、農林水産省「和食会議」、シルクセンター、帯水製糸 /振替番号 worldstyle SUGIHARA, Hiroko